



競輪の補助事業

この事業は、競輪の補助により実施しています。
<https://hojo.keirin-autorace.or.jp/>

< オリンピック・ムーブメント事業 >

JOCオリンピック教室

実施報告書

宮城県 気仙沼市立気仙沼中学校



公益財団法人 日本オリンピック委員会

「オリンピック教室」の実施にあたって

平成21年4月の学習指導要領から、中学校「保健体育 体育分野」及び高等学校「科目体育」における「体育理論」の領域で、文化としてのスポーツやオリンピック・ムーブメントの意義を学ぶことが示されました。中学校3年生では、「オリンピックや他の国際的なスポーツ大会などは、国際親善や世界平和に大きな役割を果たしている」現状を通して、オリンピックの意義を学習することになっています。そこで、JOCでは、中学校3年生の体育理論の学習に先がけ、その内容を事前に啓発する目的で中学校2年生を対象に、平成23年度から授業形式で行う「オリンピック教室」を実施してきました。

近代オリンピックの創始者ピエール・ド・クーベルタンは、人間本来の資質を高めるために、スポーツと文化と教育の側面を持つオリンピックの価値を広めることが相応しいと考え、オリンピック・ムーブメントを推進してきました。JOCもこの価値を若い世代に語り継ぐことは、極めて重要で大切な活動と考えております。日本代表としてオリンピックに出場した選手（オリンピック）は、その栄誉を自覚し、競技面だけでなく社会生活の上でも、模範となる行動が求められますが、オリンピックがその価値を直接生徒に伝えることで、日頃の授業では味わうことの出来ない感動が生まれることが期待されます。

「オリンピック教室」の授業では、教師役のオリンピックが、オリンピック大会出場に至るまで、あるいは、実際にオリンピック大会に出場して得た貴重な経験等を通して、「エクセレンス」、「フレンドシップ」、「リスペクト」、「努力から得られる喜び」、「フェアプレー」、「他者への敬意」といったオリンピックの価値（バリュー）等を伝えます。同時に、この価値がオリンピックに出場した選手だけのものではなく、多くの人々が共有し日常生活にも活かすことのできるものであること、さらに、こうした考え方があるからこそオリンピックに価値があることを生徒自身が学ぶこともねらいとしております。

平成29年3月公示の新学習指導要領では、新しい時代に求められる資質や能力を子供たちに育むために、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業の工夫や改善が求められています。「オリンピック教室」でのふれあいの中での学びが、教科の枠を越え、これからの社会や人生に活かせる資質や能力を育む一助になることを期待しております。また、この授業を通して、生徒の皆さんが、運動やスポーツが好きになり、生涯にわたり豊かなスポーツライフの実現につながることも願っています。

令和5年4月

公益財団法人 日本オリンピック委員会

- 目的 : オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート）が教師役となり、
オリンピック自身の様々な経験を通して
「オリンピズム」や「オリンピックの価値」等を伝えると同時に、
この価値はオリンピックだけのものではなく、多くの人々が共有し、
日常生活にも活かすことの出来るものであることを授業を通して学習してもらう。
- 事業名 : JOCオリンピック教室
- 主催 : 公益財団法人日本オリンピック委員会(JOC)
- 後援 : スポーツ庁
- 協力 : 公益財団法人JKA、開催地自治体及び同教育委員会
- 対象 : 中学2年生
- 講師 : オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート）※派遣オリンピックはJOCが選定
- 期間 : 2023年4月～2024年3月 ※原則、平日開催
- 実施校数 : 80校程度
- 実施方法 : クラス単位を基本とし、2コマで1セットの授業

1コマ目 運動の時間 / 50分

身体を動かしながら生徒との距離を縮め、
チームワーク、フェアプレー、身体を動かす
ことの楽しさ等を感じてもらいます。



2コマ目 座学の時間 / 50分

競技者人生を振り返り、自身が感じた
オリンピックの価値を生徒に伝え、
オリンピックをより身近に感じてもらいます。



1コマ目

運動の時間 / 50分

オリンピックの専門競技の技術指導(=スポーツ教室)ではなく、
運動が苦手な生徒も参加できるように工夫されたもの

挨拶(5分)

準備体操(10分)

主運動(30分)

まとめ(5分)



自己紹介
学習内容の確認



準備体操



主運動
(作戦タイム等を設け、
生徒が考える機会を作る)



運動の時間のまとめ

2コマ目

座学の時間 / 50分

国際オリンピック委員会(IOC)が推進する「オリンピックの価値」等を、オリンピックがオリンピック競技大会出場に至るまで、あるいは実際にオリンピック競技大会に出場した経験等を通して、分かり易く伝えると同時に、生徒自身が自分ごととして捉え、今後に活かせるような学習内容

挨拶・自己紹介(10分)

オリンピックの価値を伝える(10分)

グループワーク(20分)

まとめ(10分)



学習内容の確認



写真・映像等を使用した自己紹介



オリンピック自身の経験に基づく「オリンピックの価値」等を伝える



個人またはグループワークで話し合った内容を発表



全体のまとめ
記念撮影(クラス写真)

※時間は目安です。
※内容はオリンピックによって変動する場合があります。

●時間割について

- ・1クラスにつき、運動の時間+座学の時間の順に、2時間連続で実施します。
- ・1コマ目の運動の時間は体育館で、2コマ目の座学の時間は当該クラスの教室で行います。
- ・原則1クラスの場合は3-4時限目、2クラスの場合は3-6時限目、3クラスの場合は1-6時限目の調整となります。
- ・1日に実施できるクラス数は最大3クラスまでです。4クラス以上実施する場合は2日間以上の調整となります。
- ・同じ時間に複数クラスを実施することはできません。

■オリンピック：宮下 純一 先生（水泳／競泳）【出場オリンピック／北京2008大会】

■期 日：2023年5月16日(火)

■ク ラ ス：2年1組／運動の時間

○自己紹介～授業の目的確認～準備体操



●北京2008大会の水泳／競泳のメドレーリレーに出場したと自己紹介。来年、皆が親しみを持ってパリ2024大会を観戦できるように、オリンピックについてより深く知ってほしいと授業の目的を伝える。オリンピックシンボルの5つの輪は、5つの大陸を表し、使用されている6色で世界の国旗が描けると説明。ストレッチを行った後、新聞じゃんけんパランスを実施。広げた新聞の上に乗って先生とじゃんけんし、負けた人とあいこの人は、新聞紙を足で半分に折った上に立ち、最後の1人になるまで続けた。

○主運動等



●主運動は「新聞ボール運びリレー」を実施（全3回）。3チームに分かれ、2人組で新聞紙の上に乘せたバレーボールを落とさないように運び、次のペアへボールを渡し、チームで順位を競う。2回目からは、バスケットボール、ソフトボール、テニスボール、ピンポン玉も使用できるようにし、3回目からは、新聞紙を肩幅より内側に折って持つことを禁止するルールに変更。各回終了後に作戦タイムを設け、ボールの種類や走順、受け渡し方法について話し合い、タイムを上げるための作戦を立てた。



●運動の時間を振り返り、わずか1分間の作戦タイムでも、失敗を振り返り、改善方法を真剣に考えたことで、心に変化が生まれ、大幅に上達したのを感じた。1番を掴みたいと思う気持ちがどれだけ強いかで、やるべきことが変わるといことが分かったと思う。学校生活でも同様に、テストで100点を取りたいのか、全国で1番になりたいのか等、目標のレベルにより、どのような姿勢で取り組むべきかを考えることができる。座学の時間では、オリンピックを目指す過程について話したいと伝え、授業終了。

■ **オリンピック**：宮下 純一 先生（水泳／競泳）【出場オリンピック／北京2008大会】

■ **期 日**：2023年5月16日(火)

■ **ク ラ ス**：2年1組／座学の時間

○自己紹介～授業の目的確認～オリンピックの価値を伝える



●オリンピック出場の夢は、幼い頃はとても遠く感じたが、努力を重ね、小さなゴールを達成していくうちに、夢は目標へ変わり、現実になった。北京2008大会のメドレーレーでは、銅メダルを獲得するために、チームメイトそれぞれが達成すべき目標を明確にし、確実にこなす様に全員が思考を定めたことで達成できた。試練を乗り越えてきた経験は、「エクセレンス」に当てはまるが、皆の今後の生活でも「エクセレンス」「フレンドシップ」「リスペクト」の3つの価値を活かすことができると伝える。

○個人ワーク～グループワーク等



発問：①運動の時間に感じたオリンピックバリューを書き出してみよう。

②コロナ禍を経験したからこそ感じるオリンピックバリューを書き出してみよう

発表：エクセレンス：「1位から3位になっても諦めなかった」「マスクが苦しかったけど一生懸命練習した」等

フレンドシップ：「作戦会議でチームがまとまり強くなった」「久しぶりに皆と会ってほっとした」等

リスペクト：「外に出ずに生活した」「一生懸命教えてくれる先生の気持ちに応えようと思い、ピアノを続けられた」等



●今日の授業を通して、コロナ過に乗り越えてきたことを改めて発見したり、友情を感じた場面が多くあったと思う。パリ2024大会では、オリンピックバリューを思い出しながら観戦し、選手は何を乗り越えてきたのか、どのような想いでステージに立っているのかを想像してほしい。そうすることで、今後、目標へ挑戦する時の向き合い方が大きく変わる。日々の努力の積み重ねが大きな差になるが、やるかどうかを決める人は自分以外にいないので、今日の大きな1歩を忘れずに頑張してほしいと伝える。

■集合写真

・2年1組



■記念品贈呈

・2年1組



■修了証贈呈

